ワイドアタック™SC

■種 類 名：ペノキススラム水和剤
■有効成分：ペノキススラム---------- 3.6%

TM コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標

■登録番号：第22086号(コルテバ･ジャパン登録)
■毒　　性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
■登録初年：2007.12.28
■性　　状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体
■有効年限：5年
■包　　装：100㎖×20本、500㎖×20本

【特長】

- 茎葉散布型の中･後期除草剤。
- 広範囲な水田雑草を１成分で防除する。
- 無人航空機による散布も可能。

【適用内容】（2025 年 3 月 12 日現在）

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ﾍﾟﾉｷｽｽﾗﾑを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稲	一年生雑草 多年生広葉雑草	移植後 20 日(稲 5 葉期以降) ～ノビエ 6 葉期 但し、収穫 30 日前まで	100 ㎖ /10a	100 ﾘｯﾄﾙ /10a	２回 以内	落水散布 又は ごく浅く湛水して散布	２回以内
	ノビエ、オモダカ			0.8～ 1.6 ﾘｯﾄﾙ /10a		無人航空機による散布	
直播水稲	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ セリ ヒルムシロ	稲３葉期～ノビエ 5 葉期 但し、収穫 30 日前まで		100 ﾘｯﾄﾙ /10a		落水散布 又は ごく浅く湛水して散布	
						雑草茎葉散布 又は 全面散布	
	ノビエ			0.8～ 1.6 ﾘｯﾄﾙ /10a		無人航空機による散布	

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は懸濁性液体なので、使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出すこと。なお希釈は正確に行うこと。
- 散布液は使用当日に調製すること。
- 稲の出穂時の散布は薬害のおそれがあるので使用は控えること。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように適期に散布すること。
- 薬害のおそれがあるので展着剤は添加しないこと。
- 散布する前にできるだけ落水すること。落水ができない場合は薬液が雑草に十分かかるようなごく浅水状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
- 落水が不十分だと効果が劣るので注意すること。
- 散布は噴霧状に行い、薬液が雑草全体によくかかるようにすること。
- 散布後少なくとも２日間(浅水処理は３日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また散布後７日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。
- 処理後１日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
- 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイは花茎抽出始まで、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは４～６葉期まで、ヒルムシロ、セリは生育期まで、クログワイは草丈２０～３０㎝、オモダカは草丈３０㎝、シズイは草丈１０㎝、コウキヤガラは草丈２０㎝までに散布すること。また、一年生雑草のミズアオイは３～４葉期まで、クサネムは草丈２０㎝までに散布すること。
- クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラ防除は、それぞれの雑草に有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。

● 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
◆ 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
◆ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
◆ 周辺に水稲以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の散布は行わないこと。
◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意すること。
◆ 薬剤散布に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
◆ 本剤の散布に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
◆ 散布薬剤の飛散によって、周辺の作物に薬害を生じるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
● 薬害のおそれがあるので重複散布をさけること。
● 軟弱稲では薬害のおそれがあるので使用はさけること。
● 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
● 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
● 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合にはかからないよう十分に注意すること。また、散布田の水田水をこれら作物に灌水しないようにすること。
● 散布機、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した器具などは水稲以外に使用しないこと。
● 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
❖ 魚毒性等：使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
❖ 保管：直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。